

視点	No	意見	取組の実施・検討事項（案）
子どもの預かり	1	・親へのリフレッシュサービスの充実	・一時預かりをリフレッシュ目的でも利用できることの周知 ・ミライエ長岡での読書ひとりじかん （保育サークルにお子さんを預けるサービス）
	2	・預かりサービスの周知（ファミサポなど）	・ファミサポのチラシ作成 ・ホームページのリニューアル（利用者の声を追加）
	3	・途中入園をしやすいように。	・各種施策の中で検討
	4	・病児保育が利用しづらい。（一方で、他人に預けたくないという意見もある。）	・施策「病児・病後児保育事業」の中で検討
子育て当事者の支援	5	・時間的・経済的・気持的に余裕がもてる環境づくり 親が忙しくて余裕がない。子どもに接してあげられない。	・気持的な余裕は、一時預かりを上手に利用してもらう。
	6	・親子のコミュニケーション講座 親子のコミュニケーション不足は、子どもの脳の発達等にも影響する。 親の子育てへの無関心の現状（子どもと一緒にではなく、子どもは子どもで楽しみ、親は親で楽しみたい親が多くなっている） 親子で出かけ、コミュニケーションを図るきっかけの創出（公園無料デーの活用など）	・「子どもとの上手なコミュニケーション講座」 （連続6～7回の講座と、1回の単発講座、保育園への出前講座もあります。）
	7	・スマホ・タブレットによる影響講座 スマホが必需品になっている現状に共感したうえで、スマホ等による子どもの脳への発達への影響について伝える スマホ等で見たいものだけの情報を得たり、情報取得が簡単になるため、脳の発達に影響する。 親が使用しているのに、子どもにだけダメと言っても説得力に欠ける。	・R4に実施したが、3組しか集まらなかった。 →周知方法や講座の中身の検討
体験活動	8	・経験格差の解消 子どもたちの経験の差がないように（金銭的、時間的に厳しい家庭（ひとり親世帯など））。子どもが熱中することを手伝う。 就学援助の家庭に公園・イベント無料券の配付、施設の無料デーの設定。様々な活動ができる場の提供（キャンプなど） KY活動（危険予知活動：現場で発生する可能性のある全ての災害を未然に防ぐために事前に行う活動）が進み、危険性に気付けない子が増えている。親子でのイベントで親に一定の責任をもたせての活動も必要。	・施策「長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」」の充実 ・困窮世帯等への体験支援の検討
幼保小の連携	9	・幼保小の連携はしているが、幼保で配慮が必要なかった子どもが、小学生で配慮が必要になっているケースもある。	・施策「保幼小中の連携の充実」の継続
教育	10	・受けた教育を受けれる権利	・施策「長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」」の充実
	11	・希望する教育内容 自ら考え行動できるようになる教育。各ステージ（年代）で将来のイメージをもてるような教育 生成AI等の最新技術を取り入れた教育。子どもたちがきちんと自分を守るような性教育。 子どもを持つことがイメージできる教育	・施策「熱中！感動！夢づくり教育」の継続
	12	・教育ビジョンを提示してほしい 例：世界に羽ばたいてほしい。Uターンで長岡で活躍してほしい。	・長岡市教育大綱に記載。 教育理念「子どもたち一人ひとりの個性が輝き、幸せを創り出して いける教育の推進」
放課後児童クラブ関係	13	・放課後児童クラブ 無料で助かる。高学年が利用できない。遊ばせる物品・遊具用の予算化をしてほしい。 配慮が必要な子どもへの支援強化（職員人数や支援者の勤務日数の増）。職員業務の不平等化や上層部の優遇への不満がある。 地域により考え方や体制の偏りがあるので、現地で厚生員の声聞いてほしい	・児童会館・児童クラブの見直しの中で検討
	14	・放課後の小中学生の体験場所を地域コミュニティに作る（特に長期休暇期間）	・施策「放課後子ども教室推進事業」の継続

視点	No	意見	取組の実施・検討事項（案）
居場所づくり	15	・小学生（高学年）～中学生までの居場所づくり 公園等はたくさんあるが、屋内施設があまりない。	・各種施策の中で検討
	16	・どの年代も社会の中で自分の居場所があること（安心感につながる）	・各種施策でそれぞれの居場所が挙げられているので、整理・周知
中高生、若者	17	・子どもがいる生活をイメージできない中高生、若者が多い。 ・周りにこうなりたいとイメージできる大人がいない。 ・大人が楽しそうにしていることが大切。生きる楽しさを実感したり、自己肯定感の向上を図る取組みを。 ・若者が長岡に住みたいと思えるまちづくり。コミュニケーションが苦手な若者と社会とをつなぐ ・子どもに自分の役割があり、自分が必要とされていることを実感し、安心感につなげる。（小学生も）	・施策「次代の親育成事業」の拡充 ・施策「ライフデザインに関する情報提供」 ・これからのまちづくりのこども・若者への意見聴取の検討
	18	・結婚後も継続して働け、子育てしやすい職場環境づくり 子育て世帯の勤務時間の短縮化。母親・父親がより育休を取りやすく。 育休を取得しても、職場の人に過度な負担をかけない仕組みづくり。子どもが病気のとときに休みやすい職場の協力体制	・優良事例の周知 ・企業訪問時の働きかけ
職場環境	19	・多様な働き方ができるような企業支援 多様な働き方が企業の収益性向上・人材確保につながる	・優良事例の周知 ・企業訪問時の働きかけ
	20	・資格取得に向けた親の学びの支援	・教育訓練給付制度
就職支援	21	・ハローワークに行くことのハードルを下げる 子育て相談・就労相談からハローワークへつなげる。再就職を応援していることの周知、情報発信	・子育ての駅での再就職講座の実施などを検討
	22	・農家・起業家などの自分で自由な働き方ができる職業の魅力発信（モデルケース紹介）	・自由な働き方の魅力発信の検討
結婚支援	23	・出逢いの機会、チャンスの創出	・施策「多彩な出会いの推進事業」 ・施策「新たな出会い創出支援事業」
	24	・結婚に向けたおせっかい役、相談役の設置、周知	・新潟県事業「地域の世話焼き人」
	25	・安心して参加できるマッチングアプリ	・新潟県事業「ハートマッチにいがた」
相談支援	26	・相談支援体制の整理 ワンストップまたは減らして整理するとわかりやすい。子どもが地域で集えて相談できる場を作る	・相談支援体制の現状把握、整理
	27	・不登校支援相談所が長岡地域にしかないので、支所地域への出張相談もしてほしい。	・各種施策の中で検討
地域とのつながり	28	・地域とのつながりの重要性 身近に相談相手がいることが大事。子育て支援について相談できる（話し合える）場を広く作る。 ままのまカフェは宣伝が足りない。町内会での子育て支援強化。	・施策「産前産後サポート事業（ままのまカフェ）」のPR
	29	・多世代とのつながり 子育て世代とそれ以外の世代の交流。当事者以外も巻き込み、多世代をつなげる。 家庭以外との交流がないと、社会の仕組みがわからず、視野が狭い子どもになりかねない	・施策「次代の親育成事業」 ・子育ての駅での育孫講座の実施 ・各種施策の中でも検討
	30	・長岡市に戻ってきたいくなる行事づくり、子育て、職場環境づくり	・各種施策の中で検討
要配慮者への取組	31	・若者や子育て世代のひきこもり支援 家から出るきっかけづくり、制度の周知、アウトリーチが必要。 親自身が精神的症状により外（子育ての駅や保育施設など）に出られない、苦手な世帯もある。 ・貧困の現状を一般の方に知ってもらう。	・施策「ひきこもり相談支援室の開設・運営」の中で検討
行政支援	32	・切れ目のない支援 1歳以降の支援サービスを知らない方が多いので、情報発信やアウトリーチによる対応を。 妊娠前からの支援、産後すぐの育児支援サービスの充実。所得に関係ない支援。 結婚・出産・子育てのそれぞれのステージでの相談・サポート・（補助金）による不安解消	・1歳以降の支援サービスのPR 子育ての駅、一時保育、ファミサポ、親子サークル ・各種施策の中で検討
	33	・子育て世代との同居者への支援	・各種施策の中で検討